



仙波糖化工業株式会社

証券コード：2916

個人投資家様向け会社説明会資料

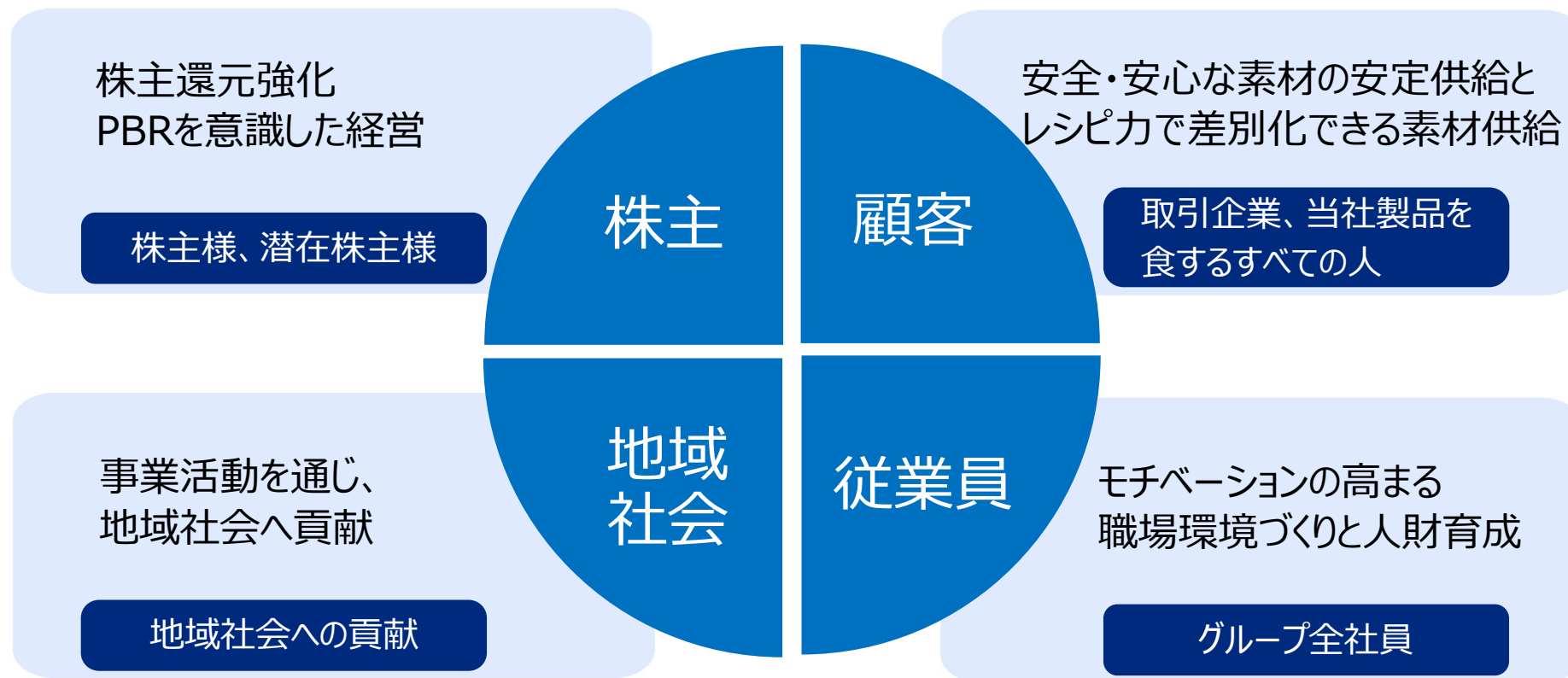
2025年8月30日

目次

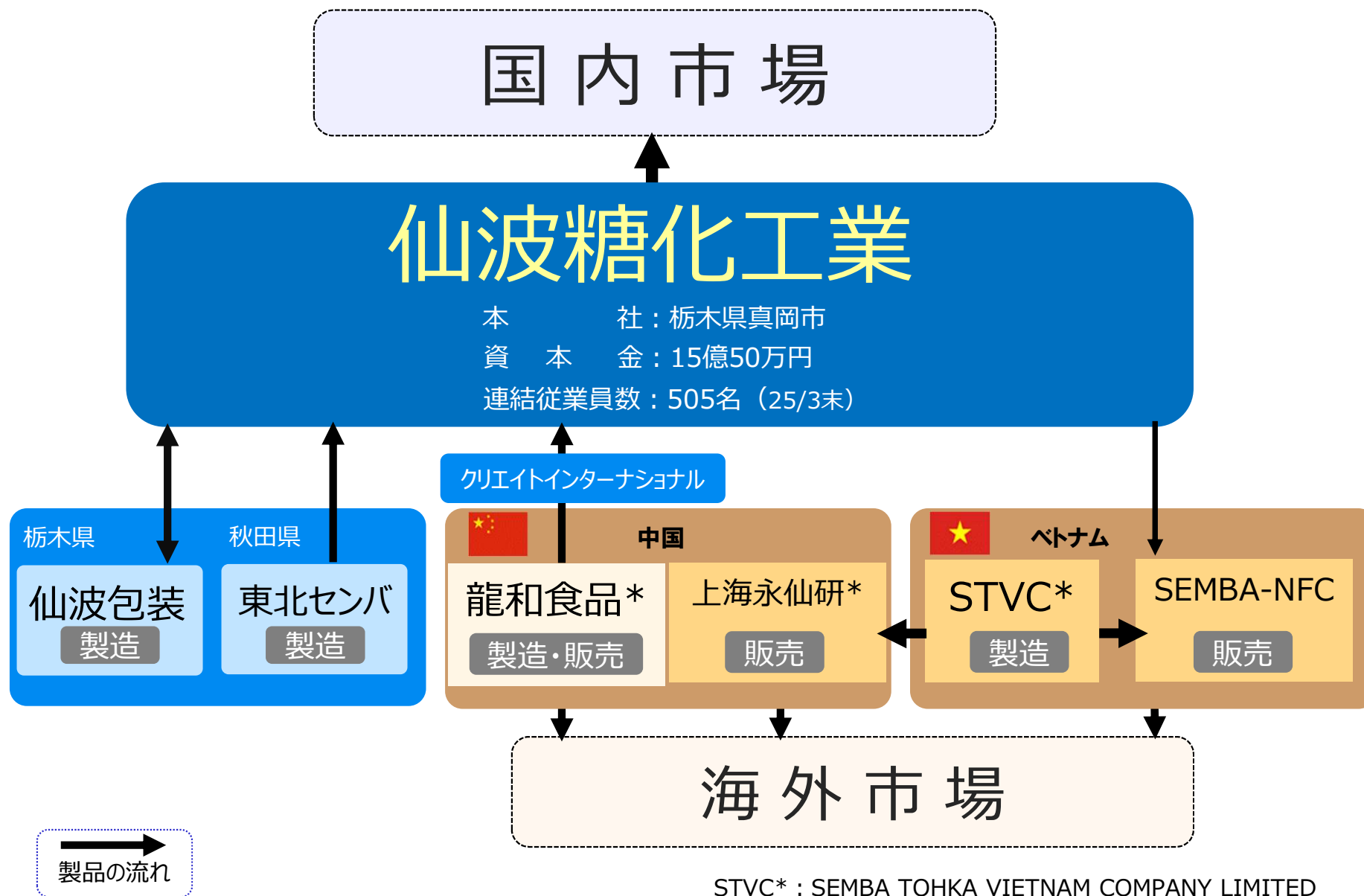
I	会社概要	P 2
II	成長戦略	P14
III	2026/3期業績予想	P22
IV	株主還元	P26
	参考データ	P29

I . 会社概要

100年企業に向けた強固な基盤構築



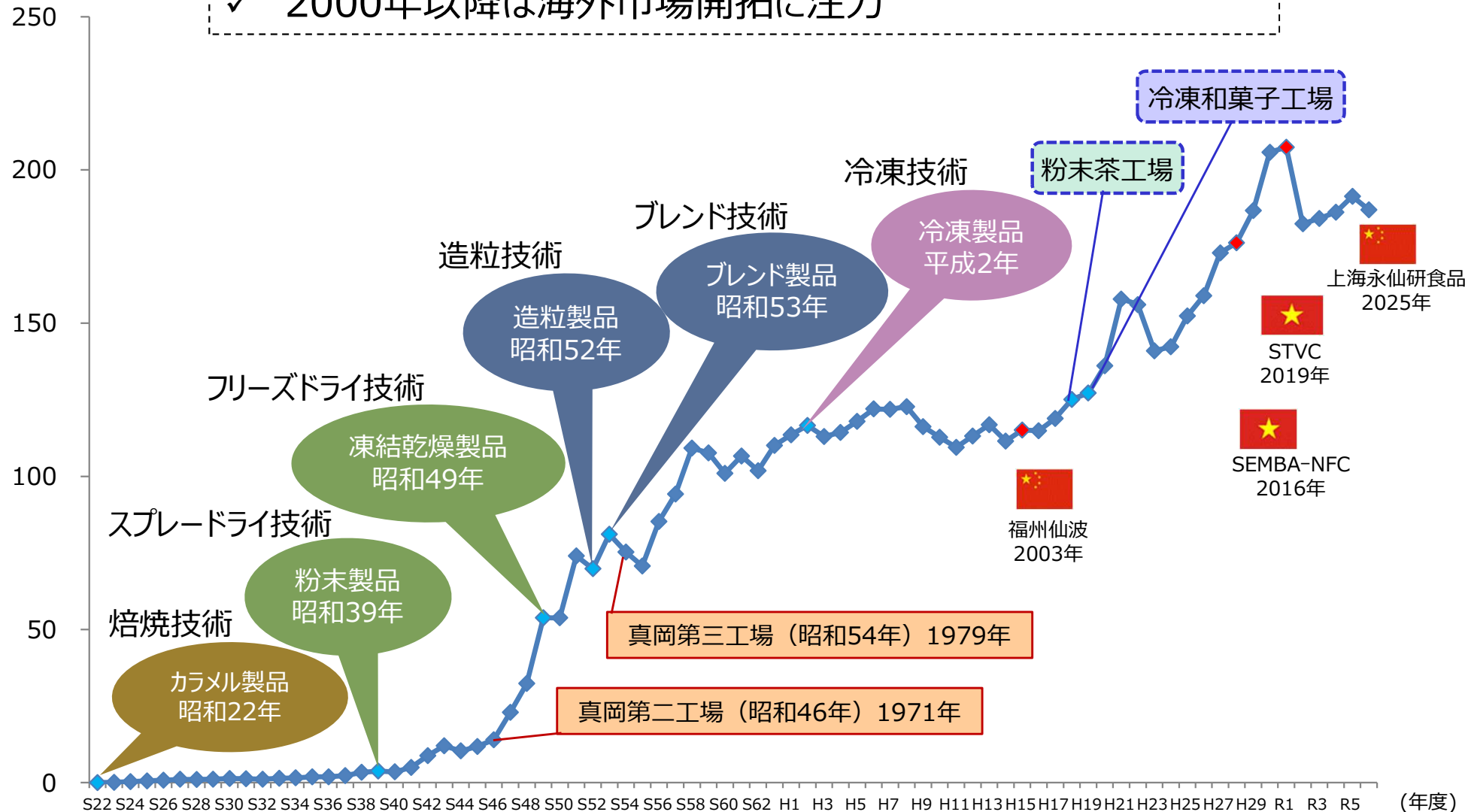
より良いものを作り、顧客信頼度を向上させ、
収益を伸ばすことで株主様、従業員、地域社会への還元を増やす



- ✓ カラメル製品で創業
- ✓ 高度経済成長期を経て食の多様化とともに技術基盤を構築
- ✓ 2000年以降は海外市場開拓に注力

売上高

(億円)



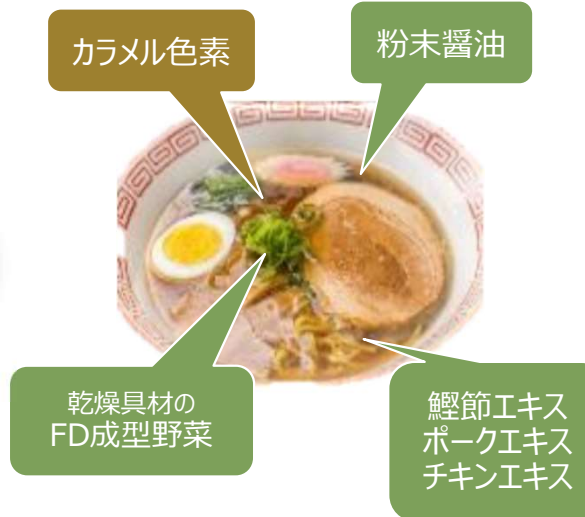
● カスタードプリン、
炭酸飲料・コーヒー牛乳 にも…



● アイスクリームや
デザート にも…



● インスタントラーメン にも…



● インスタントコーンスープ にも…



● 粉末茶 にも…



● 即席味噌汁 にも…



● お好み焼き にも…



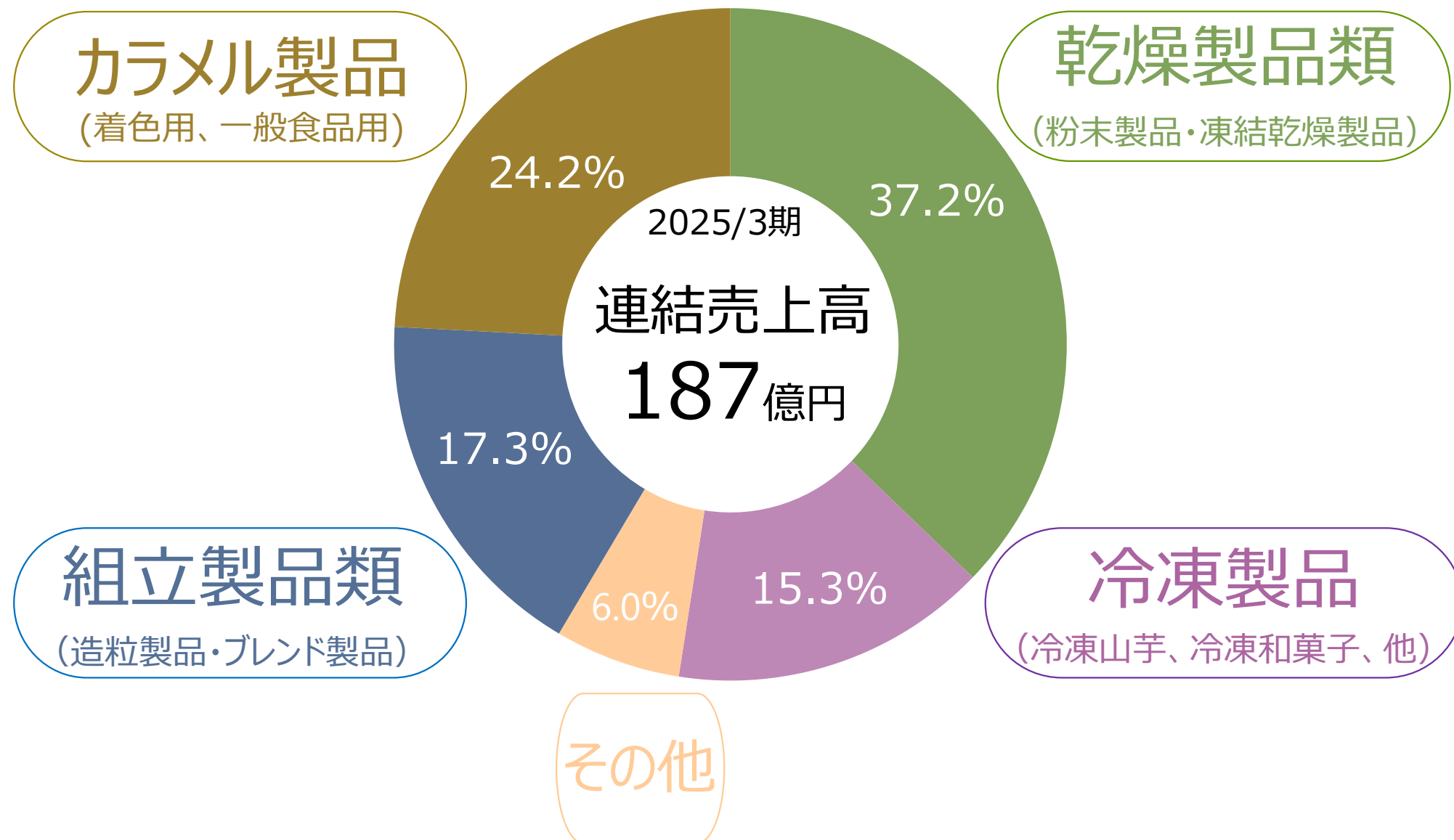
● とろろそば にも…



● 医療施設や介護施設にも…



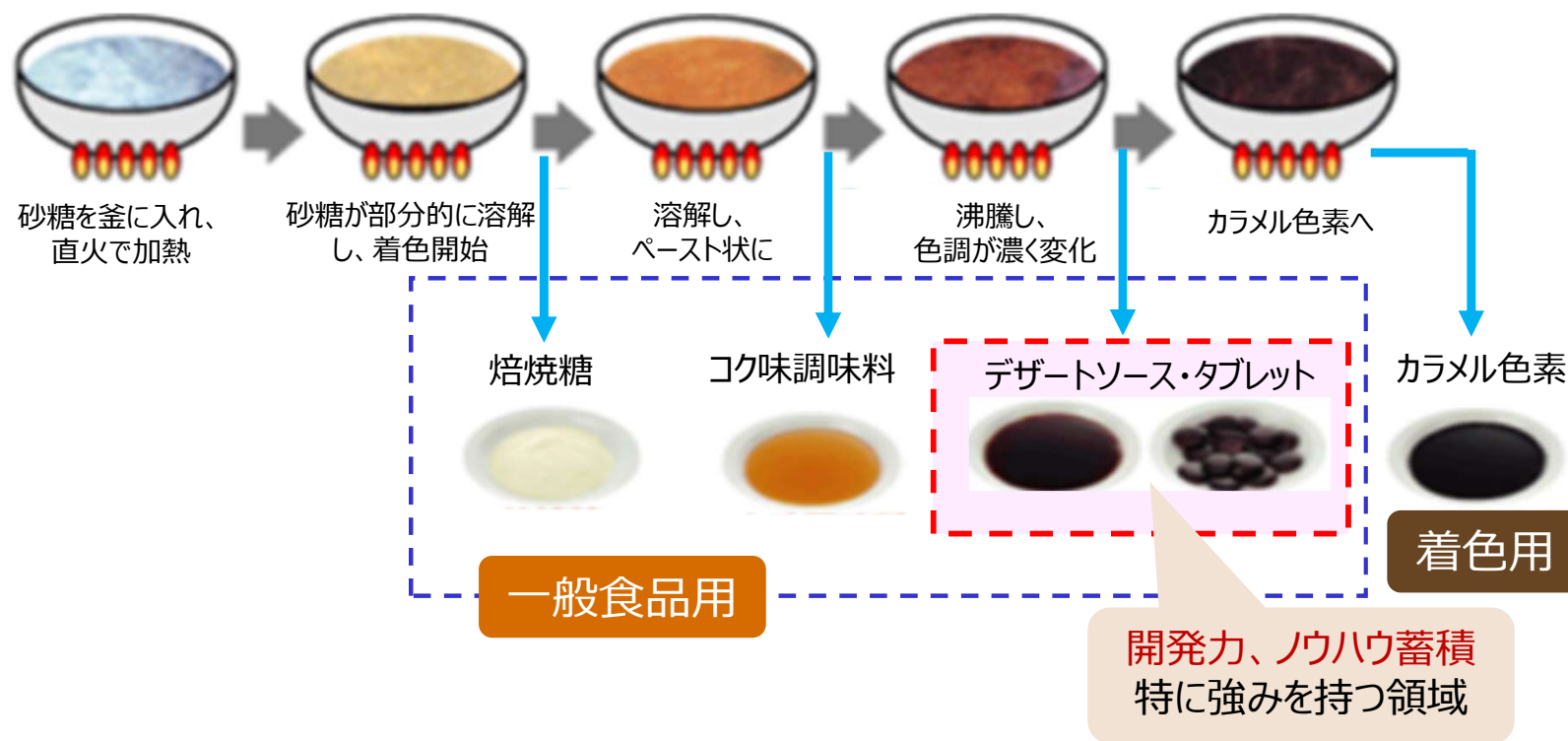
製品区分別売上構成



- 創業商材。国内シェアトップ
- 焙焼技術で着色用と一般食品用を作り分け
- 高付加価値のデザート向け新製品開発に注力
- 海外需要の取り込みで成長を目指す

焙焼技術とは

糖を独自のノウハウで加熱し、多用途な製品を作り分ける。
カaramel製品は用途に応じて液状製品と固形製品に大別される。



海外市場取り込みと一般食品用の拡販に注力

着色用

- ・清涼飲料やアルコール飲料等の飲料向け
- ・ソースやタレ類、カレー等に幅広い需要

一般食品用

- ・プリン等のデザート向けやココ味調味料向けが主力
- ・高級洋菓子やアイスクリーム向け需要が拡大

一般食品向け製品例

カaramelソース
(ボトル品) (顆粒品)



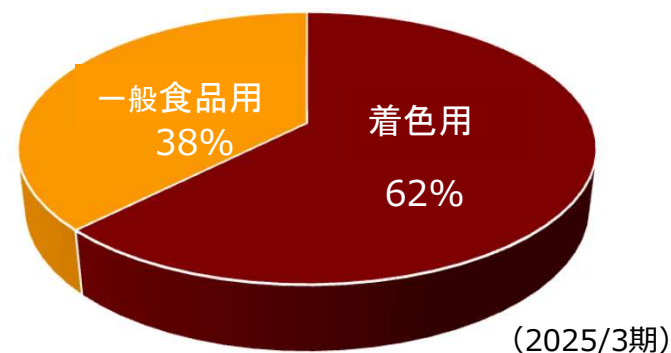
カaramelソース
(タブレット)



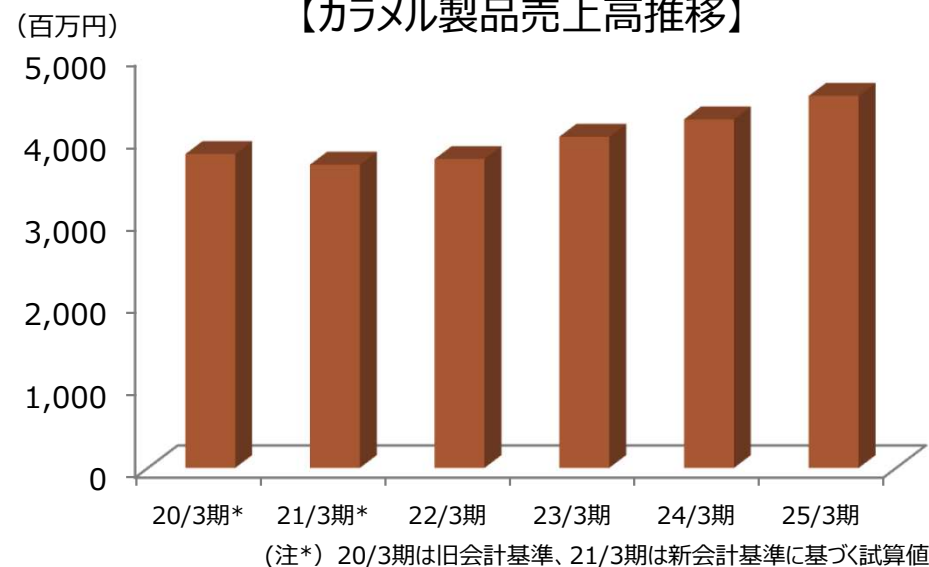
キャンディー・チップ
(顆粒品)



【用途別カaramel製品売上構成】



【カaramel製品売上高推移】



- 売上高の約80%は B to B、粉末製品と凍結乾燥製品を手掛ける
- 粉末製品は、粉末茶や粉末調味料素材（醤油や味噌）などを販売
- 凍結乾燥製品は、野菜ブロックや粉末山芋が主力

当社の主力製造技術

粉末製品

スプレードライ(SD)技術

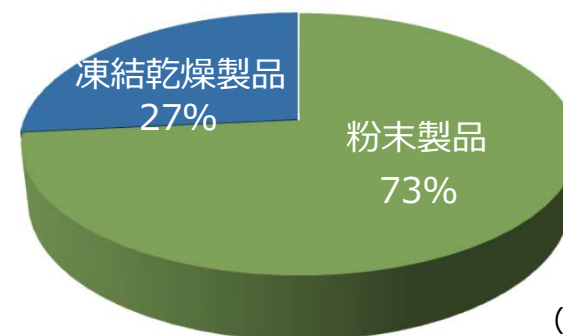
液状化した原料を霧状にし、加熱空気で瞬間的に粉末化する乾燥技術。乾燥工程が短く、大量生産に威力を発揮し、高品質で、低コストな製品の安定供給が可能。

凍結乾燥製品

フリーズドライ(FD)技術

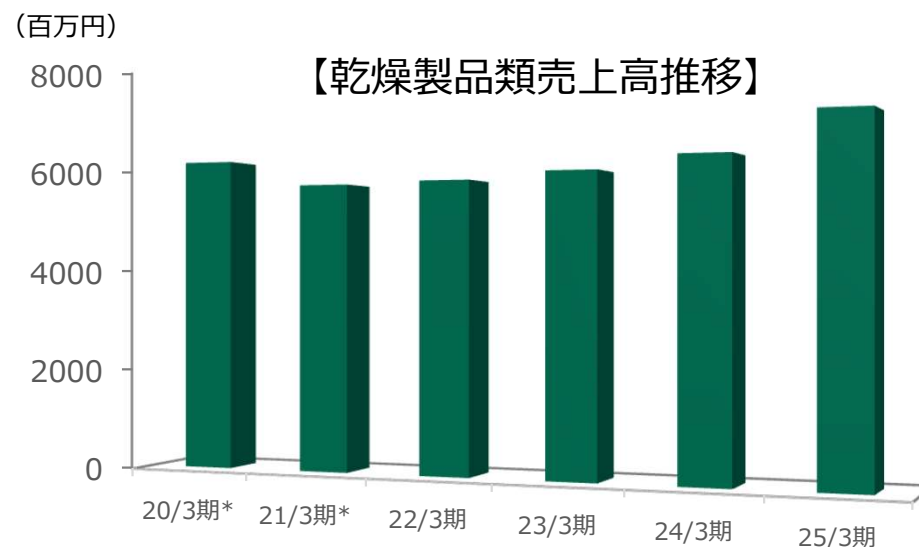
凍結させた原料を真空状態のもと、低温で乾燥させる技術。素材の色、味、香り、栄養をそこなうことなく乾燥することが可能。保存性や簡便性に加えて、機能性が高い乾燥方法。

【乾燥製品類売上構成】



(2025/3期)

【乾燥製品類売上高推移】



(注*) 20/3期は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

粉末茶

給茶機向けはコロナ禍で落ち込むも緩やかに回復
25/3期の売上高は、非給茶機向け商材が伸長し、過去最高額

自社ブランドの紹介

聖シリーズ 【煎茶】 【ほうじ茶】



稀シリーズ 【煎茶】 【ほうじ茶】



【紅茶】



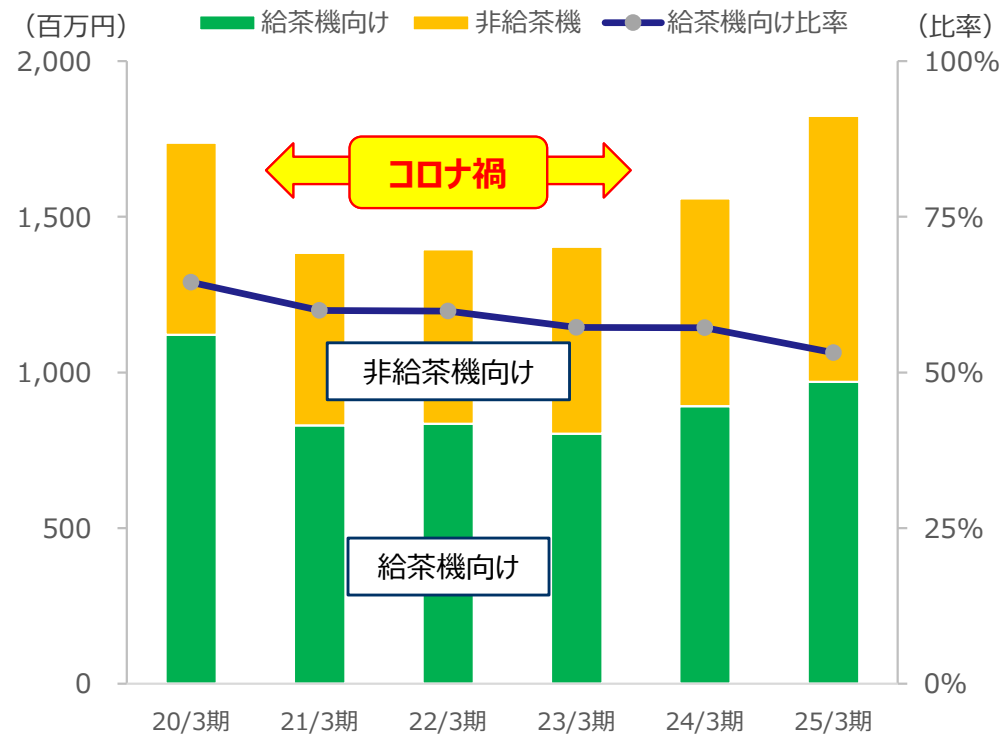
【玄米茶】



【麦茶】



【粉末茶売上推移】



(注*) 20/3期は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

- 造粒製品とブレンド製品とも受託加工が中心
- 溶け易くななどの品質とおいしさの両方を追求、レシピ力を活かした提案営業に強み
- 23/3期からスポーツサプリが消費行動の変化等もあり受託が大きく落ち込む

造粒とは

粉末食品の「溶けにくい」、「流動性が悪い」、「吸湿性が強い」等を改善し、より使い易い最終商品へ仕上げる。

造粒製品

スープ類、健康食品、スポーツ飲料、ココア等



ブレンドとは

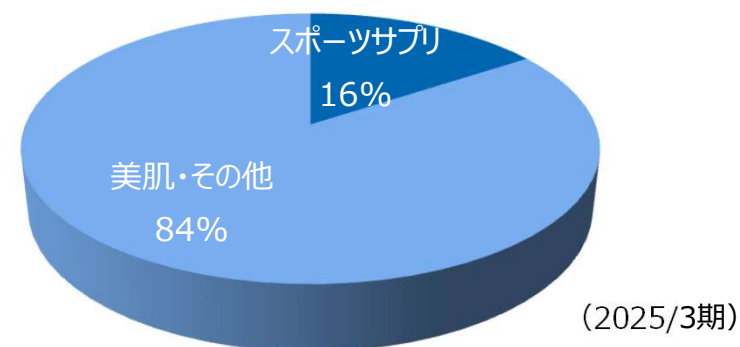
各種原料を混合し、原料の持ち味を活かした粉末状調味料やインスタント食品などを製造する。

ブレンド製品

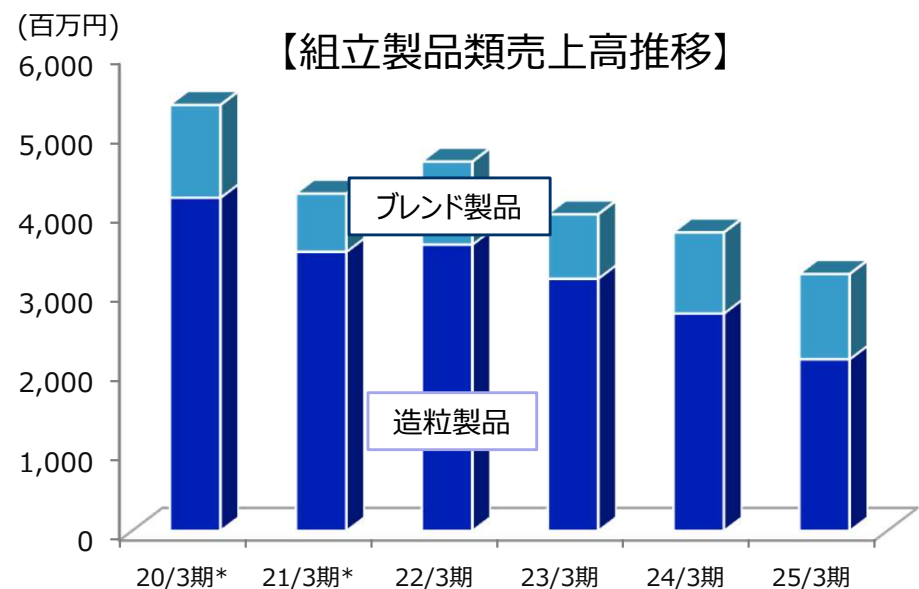
粉末ソース、粉末調味料、唐揚げ粉、みそ汁等



【ヘルスケア商材の売上構成】



【組立製品類売上高推移】



(注*) 20/3期は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

- 冷凍和菓子はメディケア市場向けを中心に、約50種類を販売
- 冷凍山芋は業務用・CVS向けが中心。取扱量は業界2位

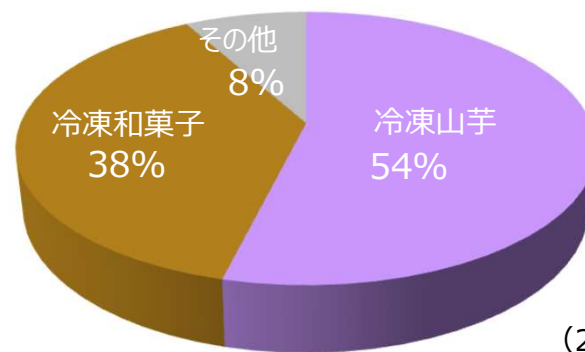
冷凍和菓子



冷凍山芋

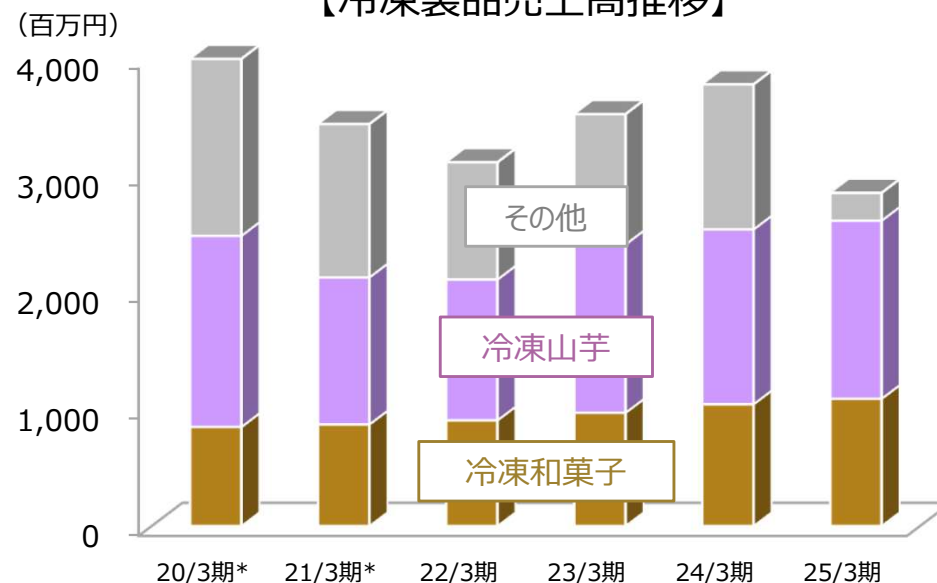


【冷凍製品売上高構成比】



(2025/3期)

【冷凍製品売上高推移】



(注*) 20/3期は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

Ⅱ．成長戦略

$$\text{PBR} = \text{ROE} \times \text{PER}$$

(株価純資産倍率)

(自己資本利益率)

(株価収益率)

現状のPBRは、0.7倍程度

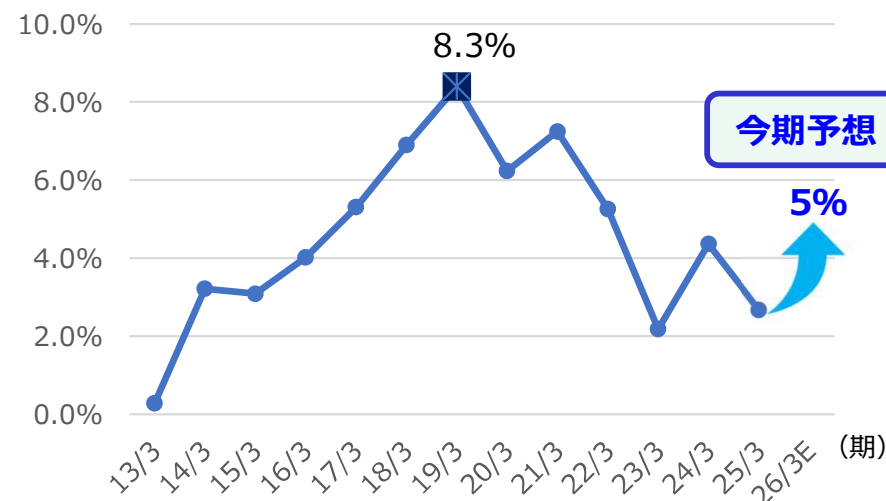
- ROEがピークとなった19/3期中の2018年8月には、PBR1.5倍を記録
- 25/3期のROEは純利益の減少で2.7%に低下



主にROEを高めることでPBRの向上を図る

- ✓ ROE向上は、営業利益の拡大で達成させる
- ✓ PER改善は、投資家との対話強化が必要と認識
 - ⇒ 中期的な成長戦略や投資家が収益構造等を理解し易い情報開示を目指す

【ROE推移】



基本戦略

グループ経営力強化

- ◆ 単体経営からの脱却
- ◆ 子会社の管理強化

自社商材拡販

- ◆ 開発強化
- ◆ 提案営業強化

海外市場開拓

- ◆ 東南アジア市場向け
- ◆ 東アジア市場向け

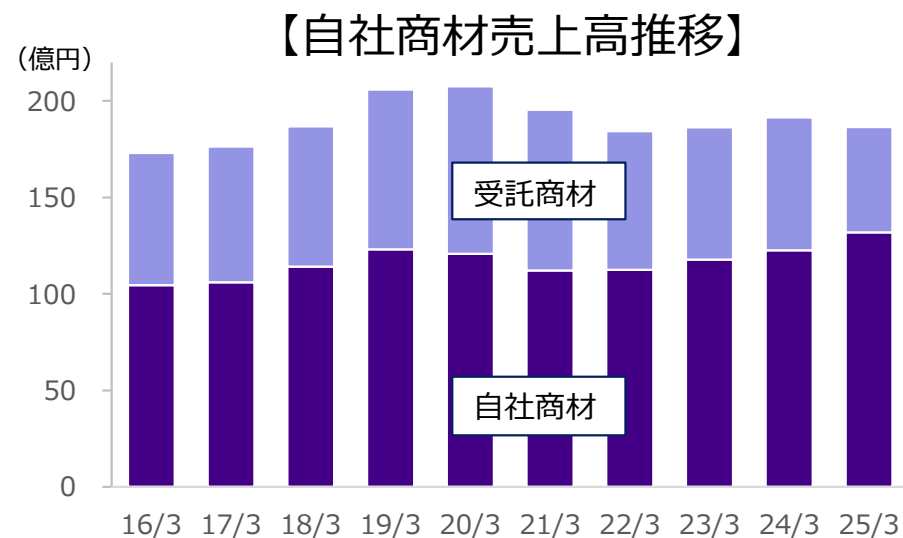
* 営業キャッシュフローの最大化を目指す

成長投資資金の確保と還元強化

海外事業戦略の一部見直し

注*) 簡易営業キャッシュフロー : 営業利益 + 減価償却費
(EBITDA)

- 龍和食品（中国）は、中国向け自社商材の開発が計画通り進まず、パートナーに経営権を移譲するが、日本向け製品の供給は継続へ。
- 福州仙波（中国）は価格競争に対応できず清算を決断するも、上海に販売子会社を新設し、ベトナム子会社からの輸入販売を主として中国市場を追求。



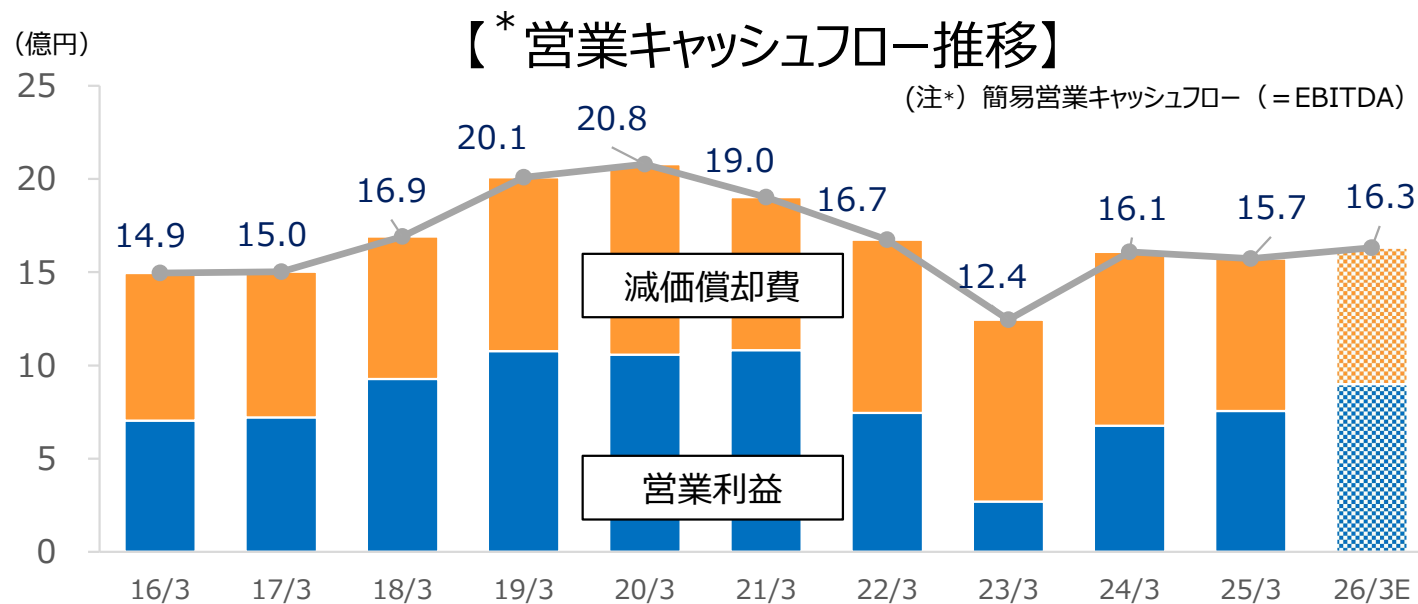
【海外市場向け売上高推移】

(単位：百万円)

	19/3*1	20/3*1	21/3*1	22/3	23/3	24/3	25/3*2
海外売上高	1,497	1,403	1,304	1,338	1,520	1,795	656
海外売上比率	7.3%	6.8%	7.2%	7.3%	8.2%	9.4%	3.5%
海外子会社	1,465	1,342	1,281	1,315	1,496	1,767	632
輸出	32	61	23	23	22	27	24

(注*1) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

(注*2) 龍和食品は、25/3期2Qから連結除外



(注*) 簡易営業キャッシュフロー (= EBITDA)

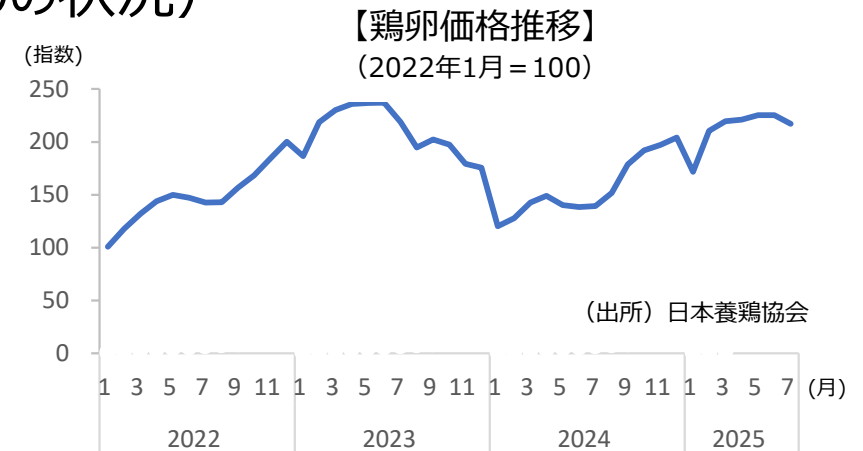
今期の重点施策

懸念材料

(期初想定)

米国関税政策に起因した世界経済への影響・不確実性の高まり

- 国内外の異常気象による農産物価格への影響（原材料費上昇）
- 食品の値上げに伴う消費者心理への影響（販売量の減少）
- 鶏卵需給動向と価格高騰（足元、高止まりの状況）



今期の重点施策

高騰する原材料費に対応した価格転嫁（対象製品個別に対応）

中国事業の再構築に伴う海外戦略の見直しで、ベトナム事業の黒字化達成

新自社商材の開発推進と提案営業による拡販強化

中国事業は事業見直し、ベトナム事業は黒字転換達成できず

中国事業

- ・中国経済の低迷、消費者の節約志向もあり、過当競争激化で収益悪化
- ・龍和食品を持分法適用会社にし、100%子会社についても事業再編を決定

ベトナム事業

- ・SD設備が稼働開始したが、計画未達
- ・量産に向けた現地従業員の採用及び研修は進む

【海外事業収益】

(単位：百万円)

	23/3期	24/3期	25/3期		26/3期
			実績	予想	
中国事業					
売上高	2,375	2,628	(※1) 131	(※1) 160	128
営業利益	▲204	10	▲33	▲5	▲19
ベトナム事業					
売上高	154	256	289	501	563
営業利益	▲123	▲50	▲79	35	35
【為替レート】					
(円/元)	19.48	19.82	21.02	21.50	20.70
(円/VND)	0.005728	0.006022	0.006187	0.006022	0.006038

(※1) 龍和食品は、連結除外に伴い、25/3期の収益予想ならびに実績に含めず

【海外事業従業員】

(単位：人)

	従業員数 (臨時雇用者除く)		出向者	
	23/12 末	24/12 末	23/12 末	24/12 末
福州仙波	11	12	中国事業	
龍和食品	100	—	4	2
SEMBA-NFC	5	5	ベトナム事業	
STVC*	40	49	6	6

STVC*: SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED

今後の海外事業

中国事業

福州仙波を清算し、上海に貿易販売会社「上海永仙研食品有限公司」を設立

龍和食品

➡ 持分法適用会社（日本向け製品の供給を継続）

福州仙波

【主な生産品目】

カaramel製品

粉末製品

上海事務所

~~福州仙波~~

会社清算に向け手続き中

【販売子会社】

2025年5月設立

上海永仙研
(100%出資)

品揃えとレシピ提案強化で、
カaramel市場を切口に新たな需要を開拓

ベトナム事業

海外市場の主幹生産拠点と位置づけ、中国市場向け商材の供給も担う

【製造子会社】

STVC*
(100%出資)

【主な生産品目】

カaramel製品

粉末製品

【販売子会社】

SEMBA-NFC
(60%出資)

一部仕入れ商材も販売

福州仙波の既存顧客向け製品の供給で稼働率向上

→ コスト競争力の強化を目指す

→ 製造原価改善で早期黒字化の実現

STVC* : SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED

工場構想については、プロジェクトチームを発足し、現在 鋭意精査・検討中

1. 取得の理由
既設工場の老朽化等による諸問題を解決し収益基盤の強化を実現する
2. 取得する固定資産（土地）の概要
 - (1) 所在地 栃木県真岡市寺内（真岡てらうち産業団地）
 - (2) 取得価額 約 16 億 66 百万円
 - (3) 資金計画 自己資金および借入金等（予定）
 - (4) 土地面積 約 66,376 m²
3. 取得の日程
土地売買契約締結及び土地引渡し 2027 年 3 月（予定）

【新工場建設予定地】



2025年5月撮影



(出所)真岡市役所HP



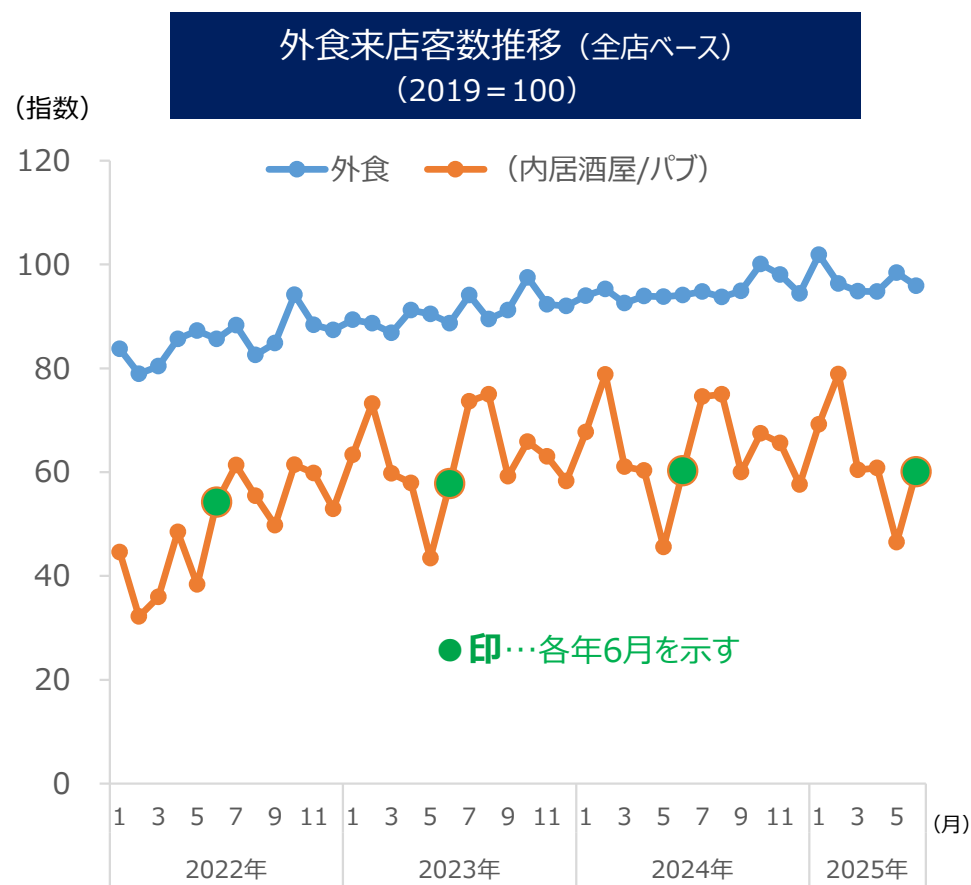
(出所)真岡市役所HP

Ⅲ 2026/3期の業績予想

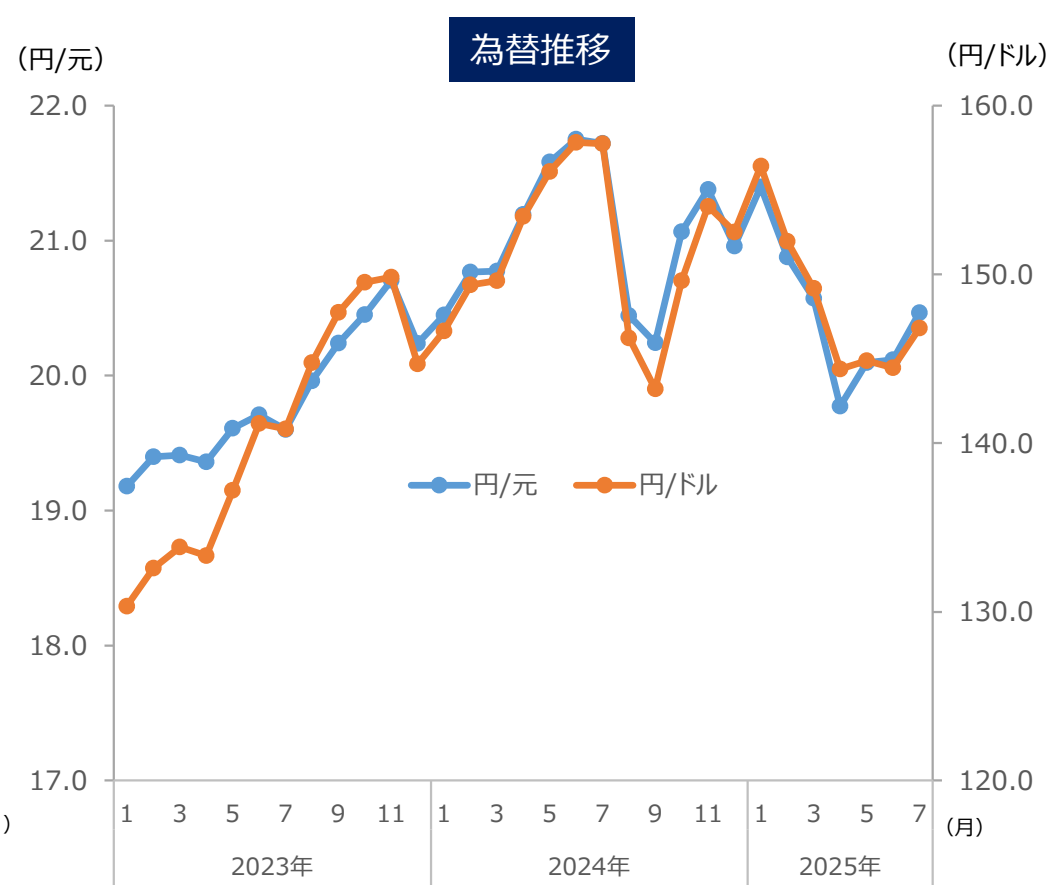
業界環境

外食来店客数は、新型コロナ禍以前の95%程度まで回復しているが、居酒屋/パブの回復は頭打ちか

米国の関税政策公表以降は対ドルで円高基調で推移するも、先行きの不透明感続く



（出所）日本フランチャイズチェーン協会、日本フードサービス協会



（出所）日本経済新聞

- ✓カaramel製品は、提案営業推進で国内デザート向け需要増加を計画
- ✓乾燥製品類は、粉末茶が堅調、即席麺向け製品等の需要増加を見込む
- ✓組立製品類は、ヘルスケア商材受託加工が底打ちも、スープ類の需要堅調
- ✓冷凍製品は、国内冷凍和菓子および冷凍山芋は堅調

(単位：百万円)

	2025/3期			2026/3期予想			
	上期	下期	通期	上期(予)	下期(予)	通期(予)	伸び率
売上高	9,257	9,443	18,701	9,600	10,100	19,700	+5.3%
カaramel製品	2,222	2,295	4,518	2,300	2,500	4,800	+6.2%
乾燥製品類	3,369	3,584	6,953	3,500	3,850	7,350	+5.7%
組立製品類	1,502	1,737	3,240	1,550	1,750	3,300	+1.9%
冷凍製品	1,632	1,222	2,854	1,650	1,350	3,000	+5.1%
その他	529	604	1,133	600	650	1,250	+10.3%

- ✓引き続き原燃料費や物流費等のコスト上昇懸念はあるが、自社製品拡販と経費削減等を推進し、営業利益は19.1%増益を計画
- ✓為替差益が無くなるも、経常利益は10.3%増益を見込む

(単位：百万円、円)

	2025/3期			2026/3期予想			
	上期	下期	通期	上期（予）	下期（予）	通期（予）	伸び率
売上高	9,257	9,443	18,701	9,600	10,100	19,700	+5.3%
営業利益	299	456	755	300	600	900	+19.1%
経常利益	405	411	816	300	600	900	+10.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	261	58	319	200	400	600	+87.7%
1株純利益	22.98	5.10	28.08	17.57	35.14	52.71	-
設備投資額			741			676	
減価償却費			817			731	
研究開発費			300			348	

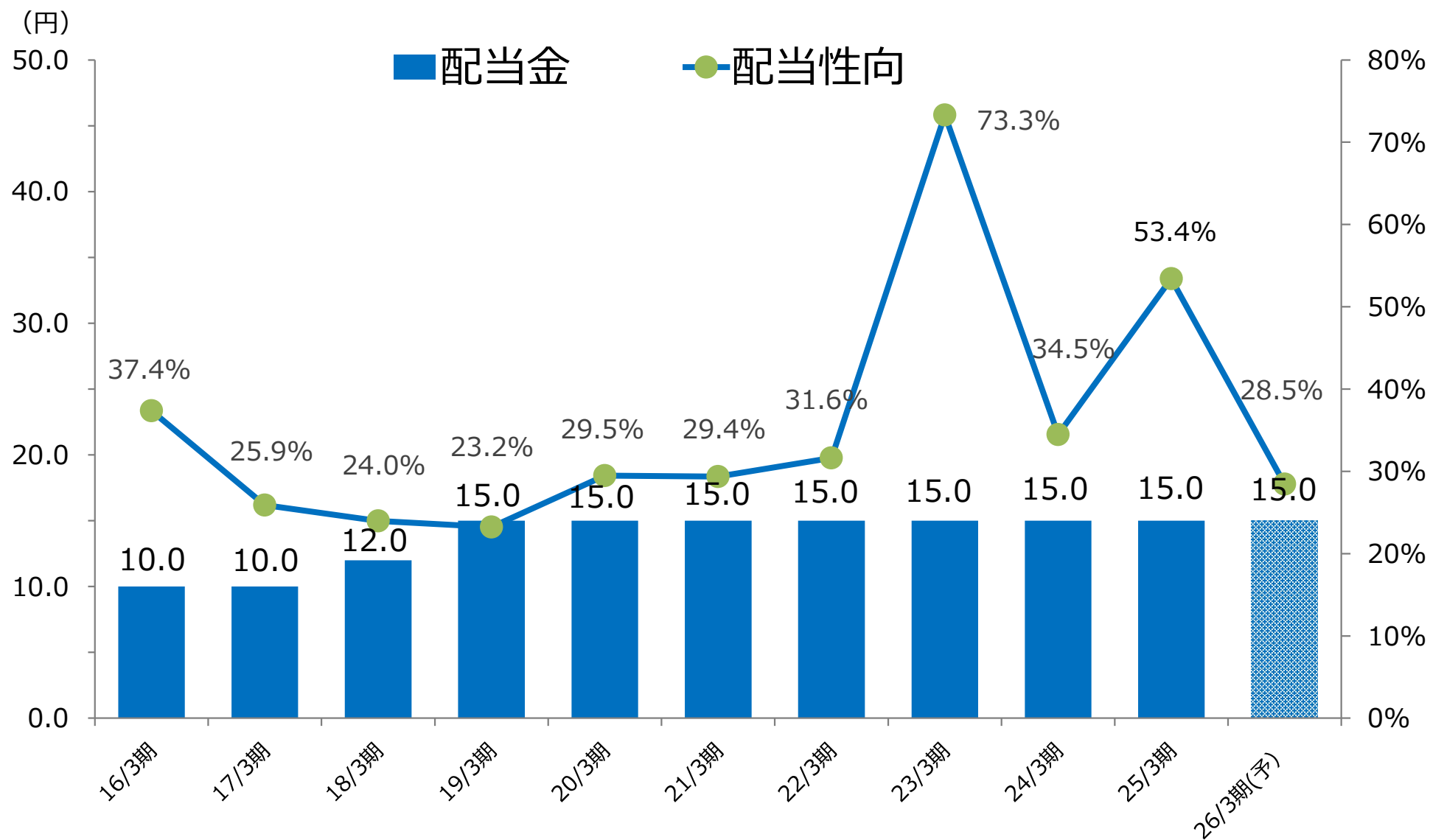
〈為替レート前提〉 25/3期：21.5円/元、155円/ドル、 26/3期(予)：20.7円/元、150円/ドル

IV. 株主還元

配当金予想

15円/株を据え置く

【2026/3期予想】



対象となる株主様

9月30日現在、5単元（500株）以上保有の株主様が対象。

優待内容

2021年8月6日に長期保有の株主様への優待制度を見直し



※2024年12月の優待品

3年未満保有の株主様
自社製品 **3,000円相当**



【12月上旬】



※2025年7月の優待品

Mocafoomo
(モカフーモ)

自社ブランド アイスクリーム新発売

3年以上保有の株主様
自社製品 **6,000円相当**
(3,000円相当×2回)



【12月上旬】・【7月上旬】



参考データ

SDGs宣言を発表



SDGs宣言
仙波糖化工業株式会社
2023年12月8日

当社は食品の「色・味・香・旨」を演出する食品素材メーカーです。
1946年の創業以来、様々な技術で食の世界を支えております。
当社の事業を通じてSDGsの達成に向け、下記の取り組みを実施していくことを宣言します。

資源循環型社会への貢献

- フードロス抑制の取り組み推進
- フードバンクへの食品寄贈
- 製造過程で発生する食品廃棄物の資源再利用を促進
- 食品安全マネジメントシステム規格FSSC22000認証に基づく安全な食品の継続的な提供

環境配慮型経営の実現

- CO₂排出量の測定・削減取り組み
- 工場・事務の省エネ化
- 再生可能エネルギー活用を検討
- 電子決済等ペーパーレス化の推進
- 工場排水処理の徹底による環境負荷低減

人的資本に係る対応

- 女性の管理職への積極登用
- 育児休暇取得推進
- とちぎ健康経営事業所認定取得・維持
- 定期健康診断・二次検診の再受診率100%
- 障がい者雇用の促進

SDGs経営の実装

- SDGs取り組み内容の公表
- SDGsの理念に沿った経営理念・経営目標の明文化
- 研修やワークショップによる全社員のSDGsへの理解促進
- 地元高校生のインターンシップ実習受け入れ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは、2015年に採択された「持続可能な開発目標」です。17の目標は169のターゲットから構成されており、2030年までに達成すべき、全人類の暮らしをより良くするための目標です。

持続可能な社会の実現と、当社グループの持続的な成長および企業価値の向上に向けた取り組みとして、SDGs・ESGプロジェクトを発足させ、2023年12月には、「SDGs宣言」を発表しました。当社の事業活動を通して、資源循環型社会への貢献、環境配慮型経営の実現、人的資本に係る対応、SDGs経営の実装に取り組み、社会的課題の解決に向けてSDGsの達成を目指すとともに、取り組み内容をステークホルダーの皆さまに発信してまいります。

◆ フードバンクへの食品寄贈

品質には問題ないものの、お客さまへの出荷期限が過ぎてしまった当社の製品、主にどら焼きやドームケーキなどをフードバンクに寄贈する活動を行っております。

◆ 健康経営の推進



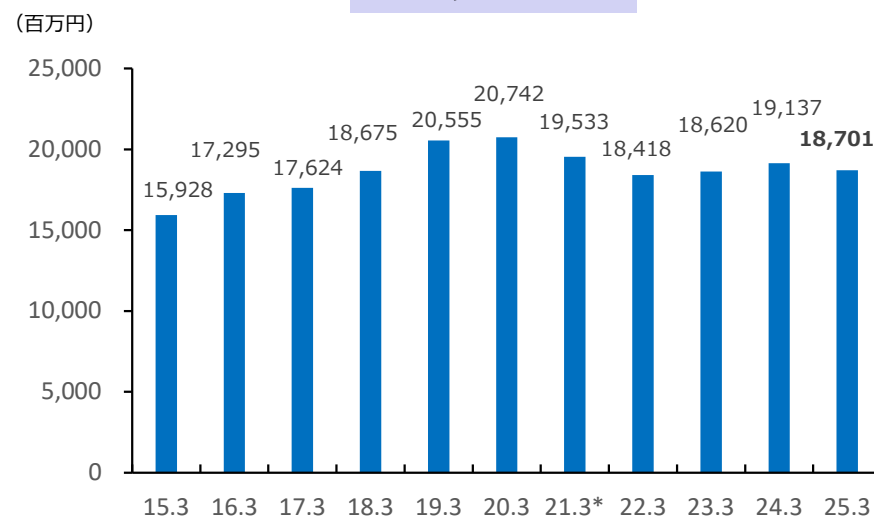
本社所在地の栃木県では、働く世代の健康づくりを推進するため、従業員の健康づくりに積極的に取り組む事業所を「とちぎ健康経営事業所」として認定しており、当社も健康経営の取り組みを通じて、その認定を受けております。



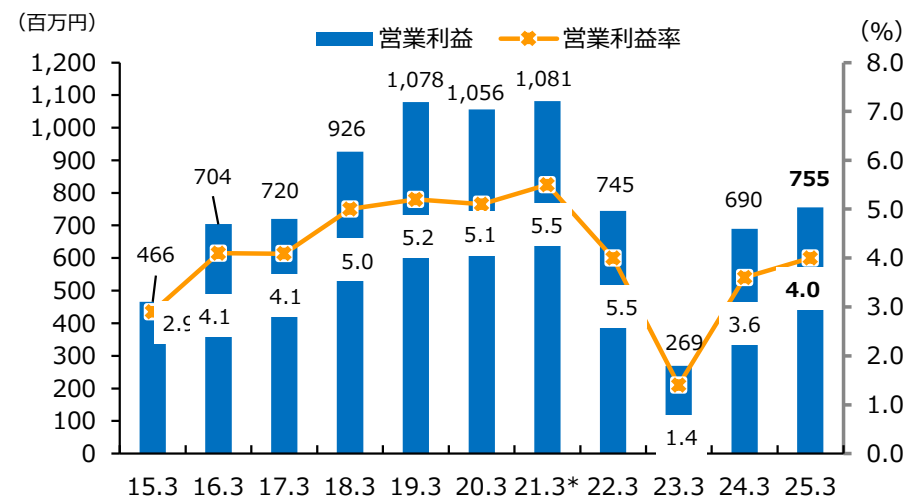
- 1946年 10月 栃木県真岡市に創業、カラムルの製造販売開始。
- 1963年 5月 スプレー・ドライヤーを新設し、粉末食品の生産開始。
- 1967年 7月 茨城県水戸市に工場を新設。
- 1971年 11月 真岡工業団地に真岡第二工場を新設。
- 1972年 5月 太陽食品包装株式会社設立。(現：仙波包装株式会社)
- 1974年 3月 真岡第二工場の第2期増設完了。フリーズ・ドライ製品の生産開始。
- 1977年 9月 本社工場に造粒設備を新設。
- 1979年 9月 スプレー・ドライヤー及び造粒設備増強のため真岡第三工場を新設。
- 1988年 9月 水戸工場を真岡第三工場へ移転。
- 1990年 7月 株式会社東北センバを設立し、冷凍山芋の生産開始。
- 1991年 1月 福建龍和食品実業有限公司を共同で設立。
- 1994年 11月 資本金13億4,050万円に増資。日本証券業協会に株式を店頭登録。
- 2001年 8月 資本金15億50万円に増資。
- 2003年 11月 福州仙波食品有限公司（現：福州仙波糖化食品有限公司）を設立。
- 2006年 4月 真岡第二工場に昆布エキス製造工場を新設。
- 2006年 9月 真岡第二工場に粉末茶製造工場を新設。
- 2007年 4月 冷凍和菓子の生産開始。
- 2007年 8月 真岡第二工場に鰹節エキス調味料設備を新設。
- 2012年 11月 株式会社東北センバ大館新工場稼働。
- 2016年 10月 SEMBA-NFC設立。
- 2017年 4月 真岡第二工場焙焼製品新工場稼働。
- 2018年 1月 福建龍和食品実業有限公司を子会社化。
- 2019年 3月 SEMBA TOHKA VIETNAM設立。
- 2021年 9月 ベトナム新工場完成。
- 2024年 6月 福建龍和食品実業有限公司を持分法適用会社化。
- 2025年 5月 上海永仙研食品有限公司設立。

主要財務データ①

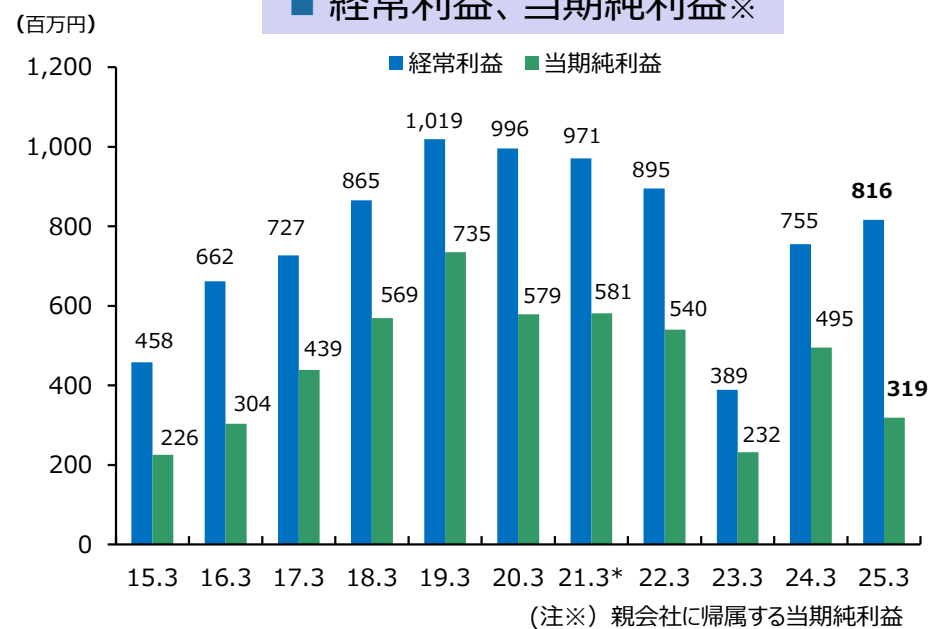
■ 売上高



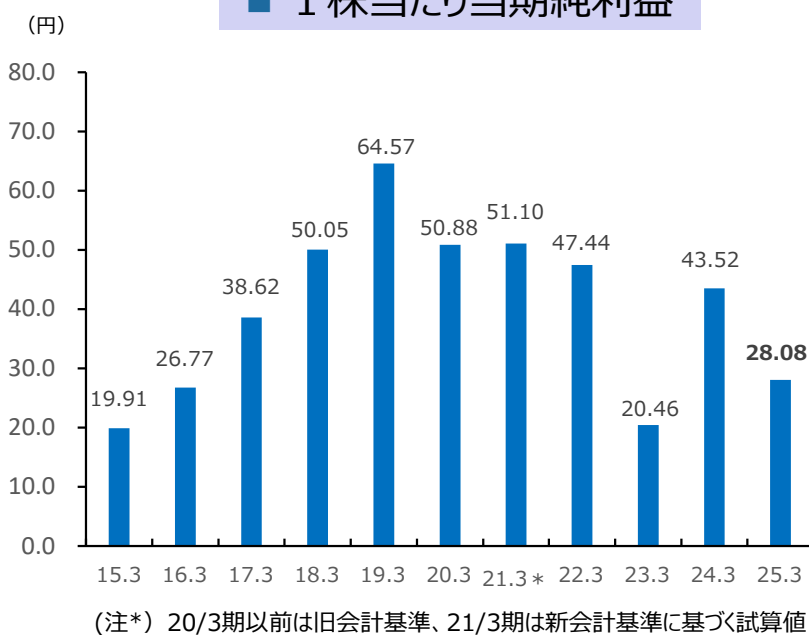
■ 営業利益



■ 経常利益、当期純利益※

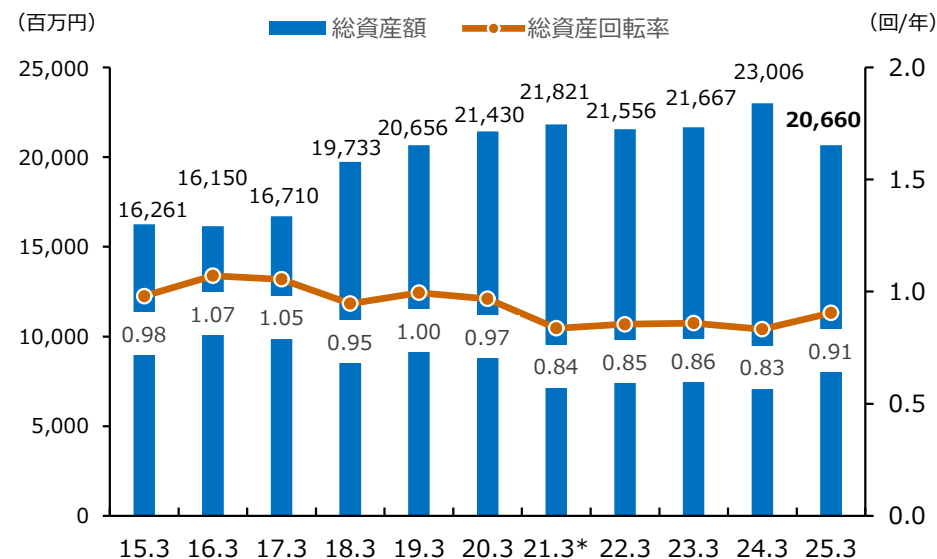


■ 1株当たり当期純利益

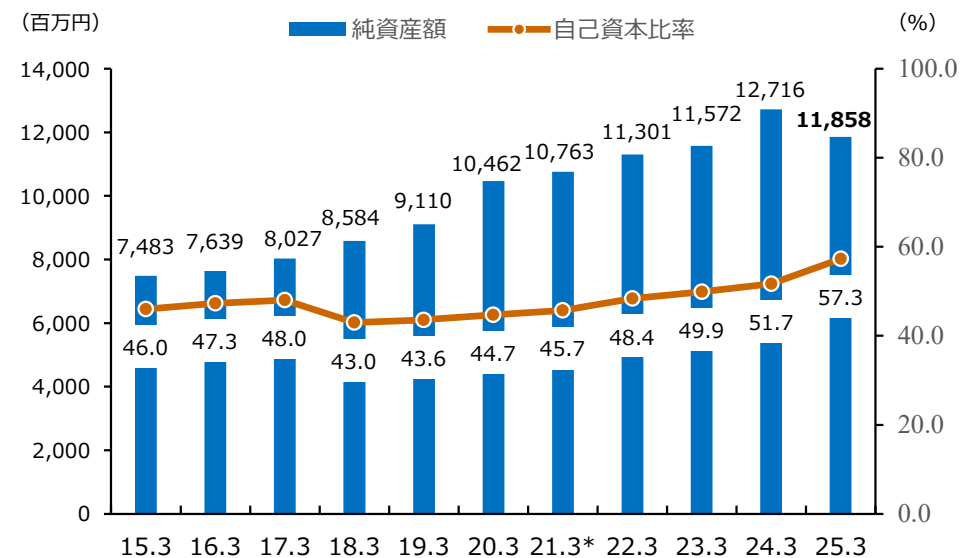


主要財務データ②

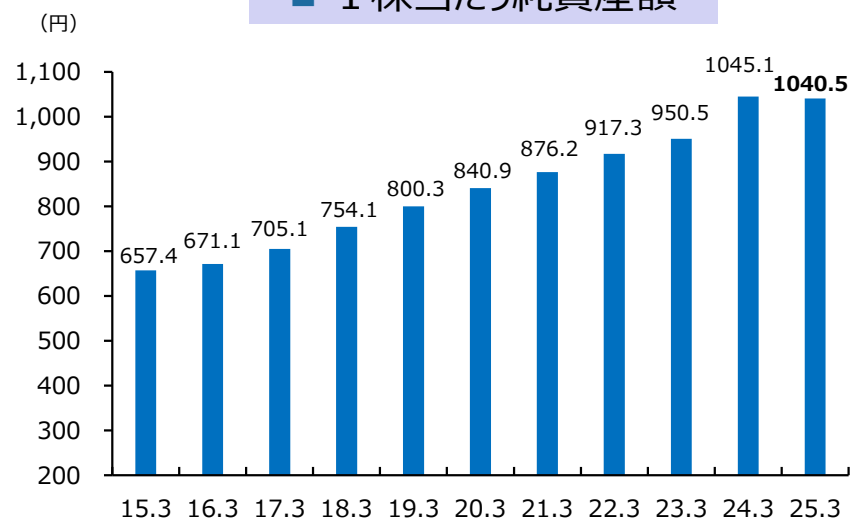
■ 総資産、総資産回転率



■ 純資産額、自己資本比率



■ 1株当たり純資産額



(注*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

〈お問い合わせ先〉
仙波糖化工業株式会社
総務部 IR担当

TEL: 0285-82-2171

FAX: 0285-84-3283

E-Mail : ir@sembatohka.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.sembatohka.co.jp/>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。